



木の香湯温泉跡地を売却しました



村では、温泉施設の民営化の一環として、木の香湯温泉跡地を有限会社コロソへ売却しました。同社は鹿児島県いちき串木野市において、「吹上浜フィールドホテル」などを展開し、地域密着型の施設運営で多くの観光客が訪れています。

今後は、震災以降休止していた木の香湯温泉を再生し村民の皆さんが気軽に利用できる温泉施設の整備、また斬新なグランピング施設も併設される計画で、現在は令和7年4月の開業を目指して温泉の試験などがおこなわれています。

白水温泉瑠璃を売却しました



村では、温泉施設の民営化の一環として、白水温泉瑠璃を株式会社ジャパックスへ売却しました。同社は地域社会の発展を目指す地域活性化事業をおこなっており、山都町に新たに完成した「道の駅通潤橋」の指定管理者として道の駅の運営にも携わられています。

今後は、温泉棟・宿泊棟をリニューアルされる計画で、より使いやすく親しまれる温泉施設の整備および同社が保有する旅行業の資格を生かした、域内手配により安定した集客と域内回遊性を高めることによる村内への経済波及効果が期待されます。

1/24 南阿蘇鉄道新型車両お披露目



見晴台駅を運行する新型車両

1月24日、南阿蘇鉄道の新型車両「MT-4000形」2両のお披露目がありました。

当日は、村内で雪が降りしきる中、午後3時30分に立野駅を出発。トロッコ列車にけん引され、多くの人たちに見守られながら村内を駆け抜けていました。

今後は、これまで運行していた「MT-2003A」号車と「MT-3001A」号車を置き換え、試運転を経て4月頃には新型車両4両体制による運転が開始される予定です。

1/30 SDGs研修会



1月30日、南阿蘇村生活研究グループ連絡協議会の会員でSDGsの研修会がおこなわれました。当日は、環境カウンセラーの神田みゆきさんを講師でお招きし、「環境に優しい商品を選ぼう」をテーマにSDGsの基礎を含め認証マークなどについて学習されました。参加者からは「とても勉強になった」「認証マークを気にして買い物をしたと思った」などの声がありました。

研修会をとおしてSDGsを身近なこととして感じてもらい、自分たちの選択が世界に繋がっていることを知るきっかけになりました。

2/5

鳥獣対策セミナー



2月5日、役場大会議室にて住民向けの鳥獣対策セミナーが開催されました。当日のセミナーでは、農家ハンターの稲葉達也さんをお招きし、「自分の農地は自分で守る」をテーマにICTの活用や電気柵・防護柵などの適切な使用方法などについて説明をしていただきました。

セミナーの中では、「まずは自分たちがエサを知らないうちに与えていないか考える必要がある」とお話があり、参加者からは「とても勉強になった」、「自分の農地は自分で守ろうと思った」などの声がありました。

2/9

勝野洋さんとの交流会



2月9日、立野公民館にて勝野洋さんとの交流会がおこなわれました。当日は、立野地区の住民やすがるの里のメンバーが参加。勝野さんよりこれまでの南阿蘇村への活動や思いなどについてお話しされました。

勝野さんは、熊本地震後に当時避難所だった南阿蘇中学校体育館や本田技研へ支援物資を届けられてから、年に数回下西原団地、馬立団地、立野区、新所区、すがるの里へ支援物資などを送られており、今後も取り組みを継続されていく予定とのことでした。

2/10

みんなで豆まき



2月10日、役場大会議室にて地域日本語教室が開催されました。この教室は、村内にお住まいの外国人の皆さんが安心して生活できる多文化共生のまちづくりを進めていくためにおこなわれており、やさしい日本語でのコミュニケーションで日本や南阿蘇村の文化について学んでいます。

当日は節分をテーマに、日本の文化について学習。その後参加者は、それぞれの国の文化や季節に関する思い出などを日本語で話して交流を深めていました。最後に、参加者全員で豆まきがおこなわれ、和やかな雰囲気教室が締めくくられました。

2/19

村長から中学生へメッセージ



2月19日、南阿蘇中学校第1体育館にて中学3年生を対象に村長講話がおこなわれました。この講話は、新たな一歩を踏み出す3年生が村のすばらしさを再認識し、郷土を見つめることで、生徒たちにこれからの自分の生き方を考えてもらうことを目的としています。

当日は、村長から村の施策や阿蘇の景観と地下水を守るプロジェクトなどについて説明がありました。生徒を代表してお礼の言葉を述べられた小辻夏美さんは、「阿蘇の自然の美しさや凄さを忘れずに生きていきたいです」と話されました。



いつまでもお元気に 百歳の表彰とお祝い



坂井イツ子さん(栃木)が百歳を迎えられ、表彰状とお祝いが贈呈されました。坂井さんは大正13年2月生まれで、中松のご出身です。栃木区に嫁がれた後は農業を営まれました。一番の趣味はゲートボールだったとのこと。入所中の施設では、タオルたたみなどの手伝いを率先してこなされています。表彰状を受け取られると、はっきりとした口調で「ありがとうございます」と感謝の言葉を述べられました。



家入マサエさん(両併二)が百歳を迎えられ、表彰状とお祝いが贈呈されました。家入さんは大正13年2月生まれ。高森町に生まれ、結婚により南阿蘇村へ移り住まれました。その後は、農業を営みながら9人の子を育てられました。お孫さんの人数は30人以上にもなり、親族でも数えきれないほどだそうです。花を育てることが好きで、外出の際には生花を買うことを楽しみにされています。当日は家族に囲まれてのお祝いとなり、仲睦まじい様子が印象的でした。

2/20 令和5年度南阿蘇村小学生親睦スポーツ大会



モルックをする佐藤悠光さん

2月20日、白水小学校体育館にて令和5年度南阿蘇村小学生親睦スポーツ大会が開催されました。この大会は、村内3小学校の6年生を対象にニュースポーツを通して親睦を図ることを目的としています。

当日は74人が参加し、3小学校の混合16チームに分かれモルックを体験。最初は緊張した表情を見せていましたが、後半にはスポーツを通して笑顔で会話する場面が増えるなど、中学校入学前に親睦を深めていました。

2/24 令和5年度自衛隊入隊者および高等工科学校入校者壮行会



(前列中央左) 入隊する野口翔さん、(前列中央右) 三森滉大さん

2月24日、令和5年度自衛隊入隊者および高等工科学校入校者壮行会が役場庁議室でおこなわれ、自衛隊熊本地方協力本部や自衛隊家族会が新入隊者および入校者を激励しました。

鹿児島県国分駐屯地へ着隊する野口翔さん(栃木)は、「兄を超えるような自衛官になりたい」と決意表明。神奈川県横須賀市の高等工科学校へ進学する三森滉大さん(白川)は「たくさんのことを学び、一日でも早く災害派遣現場などで活躍したい」と抱負を語ってくれました。二人の今後の活躍を期待いたします。

2/25

熊本復興応援「火の国サラマンダーズ花畑」プロジェクト



2月25日に火の国サラマンダーズ、(有)木之内農園の共同企画による熊本復興応援「火の国サラマンダーズ花畑」が実施されました。この取り組みは、熊本地震で大きな被害を受けた立野地区に復興のシンボルとして花畑を作ることを目的として実施しており、今回が初めて。当日は、火の国サラマンダーズの有田選手、広畑選手およびクラブ南阿蘇（学童軟式野球 南阿蘇ジュニア）の子どもたちが一緒にネモフィラの苗植えを行いました。

苗植えの後は白水運動公園で野球教室が開催され、選手と一緒にグラウンドを駆け回る子どもたちで大いに盛り上がりました。

2/27

人権擁護委員による人権教室



2月27日、はくすい保育園で園児および園の先生を対象に人権教室が開催されました。

「人権教室」は、いじめや児童虐待などの人権問題が社会問題となる中で、子どもたちの人格が形成される早い時期から、人権尊重の精神が感性として育まれるような人権教育を目的として開催されています。

当日は、阿蘇大津管内の人権擁護委員4人が講師となり、紙芝居を通して、体や心の不調を感じたら身近な大人に伝えて（相談して）ほしいこと、みんなが仲良くしているためにはお友達の気持ちを考えることが大切であることなどのメッセージを伝えられました。

2/28

関係機関と連携した豪雨対応訓練



2月28日、令和6年の出水期までに豪雨災害における対応手順を確認するとともに、情報共有の練度を高め、関係機関との連携を図り初動対応能力を向上させることを目的として豪雨対応訓練を実施しました。

訓練では、想定された数十個の被害を警察や消防、自衛隊などと連携しながら、改めて災害対応の手順を確認しました。今後も有事の際に備え、訓練を重ねていきます。

3/1

立野交流施設が県木材利用優良施設コンクールで表彰



「阿蘇の風かおる、広いテラスがある交流ステーション」を計画のコンセプトに、昨年3月に竣工した立野交流施設（立野駅）が、第29回県木材利用優良施設コンクールの県森林組合連合会長賞を受賞しました。

このコンクールは、県産材を利用した優れた木造施設などを顕彰することで、県民の県産木材利用の意識向上と需要拡大を図ることを目的に毎年開催されています。

受賞に際し設計を担当した(株)ジメント一級建築士事務所の真道さんは「阿蘇の玄関口となるこの交流施設が、多くの人に愛され、たくさん活用されることを祈念しています」と話されました。